

みなとぴあボランティアレター 第41号

新潟市歴史博物館 みなとぴあ／2020.4

令和元年度最後の活動報告です！

1/27 ステップアップ研修

1月27日(日)にステップアップ研修を行いました。今回は、「内水面の木造和船について」というテーマで森学芸員に講演していただき、11名の方にご参加いただきました。「同じ和船でも、それぞれ違いがあって面白い」「船をみる視点が変わった」などの声が聞かれ、充実した研修になりました。



1/27 新年会

ステップアップ研修の後には、毎年恒例の新年会を開催しました。今回は、新潟駅万代口近くの「柚柚 ～yuyu～」さんを会場に行いました。

司会は、ボランティア若杉明さんに務めていただきました。最初に伊東館長からご挨拶をいただき、その後乾杯をして開幕しました。各テーブルでは、お鍋を囲みながら去年の活動を振り返りや今年の活動でやりたいことなど、様々な会話が聞こえました。

最後は、小林副館長から一言いただき、お開きとなりました。来年度から





新たなメンバーも増え、一層賑やかになるみなとびあのボランティア活動ですが、今後もこういった会を通して交流を深めていければと思います。ご参加くださったみなさま、また幹事を務めてくださったみなさま、ありがとうございました！



会の途中には、荒木さんが自慢の「高砂」を披露して下さいました！



新規ボランティア研修はじまりました！

2月15日（土）より新規ボランティア研修を開始しました。今年度研修を受けられる方は15名の方です。みなとびあの講演会に度々足を運んで下さっていた方もいらっしゃれば、今回はじめて来館したという方もいらっしゃいます。

研修の様子を見ていると、どの研修においても多くの質問が飛び交っていました。中には、現役ボランティアさんからアドバイスをもらう方や常設展示のガイドマニュアルを音読したものを録音し、それを聞きながら覚えているという方も。皆さん勉強熱心で驚かされます。

新型コロナウイルス感染拡大防止により中断してしまいましたが、再開した際はまた楽しみながらご参加いただければ幸いです。



説明会の様子



常設ガイド研修の様子

みなとぴあボランティアガイド体験記

みなとぴあのボランティアを1年間やってみて

初めまして、小池上 護（こいけがみ まもる）と申します。生まれも育ちも新潟市内です。大学4年間、さらには医療機械メーカーに就職して東京本社勤務、名古屋転勤などで新潟を離れている間、すっかり新潟らしさを失って地元新潟に帰って来てからも新潟弁も忘れ、本社から来た社員には「新潟、見る所ないよ。行くんだったら佐渡かな」などと公言していました。地元根を張るべく転職後20年間は、郷土愛が増す一方でした。

65歳を目途に退職する気持ちでいたところ、新潟市広報誌に「新潟シティガイド」の応募記事が目にとまり、即座に申込みました。そこで目にし、耳にしたものは正しく「目からうろこ」の連続、「新潟には見る所無いよ」と豪語していた自分を恥じ入りばかりでした。諸先輩から丁寧に教えてもらい、当惑する1年間を過ごして1人前とは言えない時に、みなとぴあボランティアガイドもやった方が良くアドバイスをもらい素直に従って今日に至っています。



新潟シティガイドの発着地点がみなとぴあだったため、馴染みではありましたが、何が展示されて、どの様に利用されているかなど、ほとんど知りませんでした。学芸員の方から教わり、ボランティアガイドの先輩からも説明を受け、所謂「見極め」に2度目で合格。やれやれと思って始めたガイドですが、30分で話せることと言ったらほとんどタイトルに近い内容、それではお客様も退屈するだろうなと思って、ふとある学芸員の方(SSさん)が小学生に話しているのを聴いて「これだ!」と思いました。「この風景は今から約80年前の稲刈りの様子ですが、今と違うところをいくつか挙げて下さい」と質問を投げかけていました。一方的な話は大人でも退屈するもの、まして子どもたちはガイドが話している内容よりも興味はジオラマのトンボや水面下の魚です。時間に少し余裕がある時は海岸に打ち寄せられる漂流物やパネルの画面を見せてスウェーデンの17歳の少女グreta・トゥンベリさんの話をします。子どもたちの目がはっきりと関心の度合いを示してくれます。

このみなとぴあはそれだけの価値と地理的優位にありながら、その知名度は新潟市民ですら高くはないと思います。横浜倉庫群や函館レンガ倉庫など言えば、その名を聞いただけで、どんなところか連想できます。にいがた税関街など、これと言ったネーミングは思いつきませんが、ここを拠点に早川堀沿いにはレストランやお土産屋さんが立ち並び、小澤家住宅で一服して花街まで足を延ばして夜のおもてなしを満喫する、と言った新潟の見所、食い処を満喫できる場所として、お金を掛けずに観光地化、インバウンド客誘致には好適地とも言えます。駐車場は3時間以内は無料、それを超える駐車希望者は雲雀浜の埋立地を駐車場にして10~15分間隔のシャトルバスで連絡すれば公共交通機関を特段整備しなくても可能ではないでしょうか。こんな大袈裟な話まで書いて果たして掲載してくれるのでしょうか。

2019 年度活動日誌より

ここでは、2019 年度の活動日誌にお書きいただいた感想を少しではありますがご紹介します。

常設

東京から来たお客様でした。生まれてから高校生までの間、新潟の下町に住んでいたそうです。同級生の方がシティガイドの方で1時間かけて館内を案内したそうです。私の顔見知りの方でした。私の案内は必要なかったとおもいましたが、念のため、災害コーナーの事を話したら、そこは見てないとの事なので、もどってコーナーに行きました。かつて住んでいたお客様も今住んでいるお客様も、このコーナーは昔語りに花が咲いたようでした。今日のお客様もとても喜んで、昔語りをしてくれました。

敷地

ベトナムからの留学生とのことであったが、日本語の練習・勉強に来日しているとのこと。ガイドは日本語でとの要請。どこまで日本語を理解しているのか不明で、説明に難儀しました。冬の暮らしぶりも知りたいと要請があったが、敷地ガイドの中で冬を物語るテーマがなく苦勞しました。

体験

クリスマスツリーの押絵づくり。はじめてのプログラムでした。ツリーの枝の広がりをつくさんつけた方は押絵を作るのに時間がかかったので、遅れて来た方には簡単な形にして作ってもらいました。皆さんの可愛いのができて喜んでいました。

【編集後記】

今回は、新年会や新規ボランティア研修などを紹介させていただきました。また、小池上さんには1年間みなとびあのガイドを経験してみたの感想も執筆していただきました。こういったボランティアのみなさんの生の声を今後も多く紹介できたら良いと思いますので、その際はご協力をお願い致します(鈴木)

2019. 6. 25 現在

みなとびあ歴史発見プロジェクトは、こどもからおとなまで幅広く、みなとまち新潟の歴史に親しみ、自ら歴史を発見する喜びを知ってもらい、開港150周年を迎えた新潟の街をみんなで盛り上げていこう!という事業です。

「みなとびあ歴史発見プロジェクト」は、下記の地域の企業・団体みなさんからご協賛をいただいています。

